

教えて! 市立病院

〈第79回〉大腸がんが増えています

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450



〈今月のドクター〉

第二内科長
佐藤 智佳子 医師

高齢化が進む日本、そのなかで増えている病気は何でしょうか？それは「がん」です。がんは遺伝子に傷のついた細胞が不死化して、分裂を続け、無秩序に増え続ける病気です。年をとると遺伝子に傷がつきやすくなります。また、免疫も衰え、がんを退治できなくなってしまうため、高齢化に伴って、がんが増えるのです。

いまやがんは日本人の死因の第1位です。2人に1人は生涯にがんにかかるかと推定されています。2017年の部位別のデータでは、死亡数が多いのは1位が肺がん、2位が大腸がん、3位が胃がん、4位が膵臓がん、5位が肝臓がんです。男性の1位は肺がん、女性の1位は大腸がんです。一方、新たにがんと診断された人の数は、1位が大腸がん、男性の1位は胃がんですが2位は大腸がん、女性は1位が乳がん、2位が大腸がんです。大腸がんはすでに胃がんを抜いて、最近大変増えてきています。

大腸がんが増えてきた背景には、食生活の欧米化が指摘されて

います。赤身肉やベーコンなどの加工肉の摂取はリスクを増し、食物繊維の摂取はリスクを下げるといわれています。また、運動もリスクを下げるとされています。

大腸がんは早期のうちに治療すれば、治る病気です。便潜血検査による大腸がん検診は、少量の出血も検出することができ、死亡率を減少させることが科学的に証明されています。検査で異常がみつかったら、大腸内視鏡検査を受けて、早期にがんを発見し、治療をしましょう。家族で大腸がんにかかった人がいる場合は、大腸がんのリスクが高いため、特に検査を受けることをお勧めします。